

子ども達が紡ぐ 地域の伝統

一説によれば、番楽は六百年以上、歌舞伎は三百年以上前から始まったと言われており、今や金山町の重要な伝統芸能です。現在、有屋小学校の子ども達は番楽を、明安小学校の子ども達は歌舞伎を保存伝承。年に一度、「子供伝統芸能発表会」の場で、練習の成果を披露しています。

有 屋少年番楽は、有屋地域の稲沢地区及び柳原地区に古くから伝わる民俗芸能「番楽」を伝えることを目的として、昭和59年の有屋小学校創立百周年を記念して組織されました。

結成以来、今年で32年目を迎える有屋少年番楽は、現在有屋小全学年の児童を対象。父兄と番楽保存会の皆さんの協力を得ながら、春から発表会本番まで毎週1回、夜間に練習を行っています。

少年番楽を通して、児童たちは温故知新の心や郷土愛を育んでいます。また、有屋地域にとっても貢献は多大。学校教育・地域教育・社会教育など、全ての教育分野にまたがる総合的な教育効果を発揮しています。

明 安子ども歌舞伎は、明安小学校が学校教育の一環として導入した伝統的農村芸能です。安沢歌舞伎保存会の指導のもと、平成9年から取り組んできました。

出演は主に5・6年生。総合的な学習の時間や放課後、さらには夜間を利用し、練習に励んでいます。また、平成14年度から16年度にかけて文化庁の助成事業を活用し、衣裳・大道具・小道具・その他必要なものを揃えてきました。

明安子ども歌舞伎は、郷土学習の一環として取り組み、地元につながる伝統芸能の伝承・保存に貢献することを目的としています。学校教育だけでなく、社会教育の充実を図ることで、児童たちは地域の中で成長しています。

子 ども達にとって、練習の成果を披露する晴れの舞台である「子供伝統芸能発表会」。14回目を数えた今年も、多くの来場客で賑わいました。

その評判を聞きつけ、子ども達は町外のイベントに出演する機会が増えていくそうです。2つの団体ともに、児童数の減少など、抱える課題はありますが、舞台上でいきいきと演じる姿は「未来」を感じさせます。子ども達はこれからも、今までの伝統を守りながら、地域の文化を紡いでくれることでしょう。



10月14日、中央公民館を会場に「子供伝統芸能発表会」を開催。特別出演の「幅神楽保存会（舟形町）」と「及位の童歌保存会（真室川町）」が発表された後、町内2団体による公演がなされた。

▼1～7有屋少年番楽。口上で長い台詞を披露。「獅子舞」では舞い手の巧みな手さばき、「三人太刀舞」では太刀くぐりが、大きな見せ場となった。

▼8～13明安子ども歌舞伎伝承会。演目は「菅原伝授手習い鑑 吉田社頭 車引きの場」。隈取という化粧や、見得や六法などの役者の動きが醍醐味。

及位の童歌保存会（真室川町）



及位地域に住む佐藤壽也氏が、祖母トリヨさんから口伝えに聞いた童歌を保存し、伝えていこうと、及位の童歌の継承が始まりました。学校の課外学習と連携し、平成17年には及位の童歌保存会が結成。現在は、及位地区の子供と大人を中心に、真室川北部小学校の児童たちが一緒になって継承しています。

幅神楽保存会（舟形町）



150年以上の伝統を持つと言われ、五穀豊稔・家内安全・交通安全・厄払い等を願って舞われています。昭和63年2月、旧長沢小学校校舎のこけら落として地域の方々の手ほどきを受けた児童が舞い、それがきっかけで幅神楽保存会が創設。現在は、幅地区内の大人の指導者と男子児童3人が一緒に活動しています。

